

## 令和7年度 学校経営計画及び学校評価

## 1 めざす学校像

## 【めざす学校像】

伝統校（1906～）、総合学科（1996～）、共生推進教室設置校（2020～）の3つが揃う日本唯一の高校としての強みを生かし、校訓「誠実剛毅・和親協同」のもと、「磨け知性・輝け個性」の理念を掲げた教育を実践し、様々な社会的変化をたくましく乗り越えるための知性や体力、自分らしさや他者への思いやりを大切にする豊かな心と健やかな身体を育み、大きな夢と高い志を持って持続可能な共生社会を創る人材を育成する学校。

## 【生徒に育みたい力】

- 伝統校として…「誠実剛毅」の校訓のもと、大きな夢と高い志を持ってタフに学び続け、自らの進路を切り拓く力。  
「和親協同」の校訓のもと、自主自律の精神を重んじて、ともに切磋琢磨し、清清流刺とした校風を創る力。
- 総合学科高校として…「磨け知性・輝け個性」を理念とし、学際的な学びを通じて個性を伸長し、自ら問いを立てて行動し、新たなものを生み出す力。
- 共生推進教室設置校として…ともに学びともに高め合う感性と高い人権感覚を育み、多様性を尊重し、「人・社会・世界」と繋がり共生社会をリードする力。

## 2 中期的目標

## 1. 「誠実剛毅」×「磨け知性」…誠実な態度で学びに向かい、剛毅な姿勢で学び続け、高い志を持って自らの進路を切り拓く力を育成する

## (1) 高い知性と確かな学力の育成

- ア 「知識・技能」を礎に「思考力・判断力・表現力」を重点的に育成し、「主体態度」を養う授業実践を進める。
- イ 1人1台端末等のICTや学習支援クラウドサービス、Web会議システム等の活用を推進し、すべての生徒の基礎学力の定着を図る。
- ※ 生徒向け学校教育自己診断（以下生徒自己診断）において、「先生方は教え方に工夫をするなど授業に熱心」の肯定率を令和9年度には88%以上にす  
る（R4:84%、R5:86%、R6:86%）。「授業で自分の考えをまとめたり発表したりすることがよくあった」で90%以上を維持する（R4:94%、R5:93%、  
R6:90%）。「本校は有効にICT機器を活用している」で90%以上を維持する（R4:88%、R5:90%、R6:92%）。

## (2) 豊かな知性を磨く教育課程の編成

- ア 教科横断的で学際的な学校設定科目の設置等、総合学科の特長ある教育課程を編成し、包括的に事象を捉える能力を伸長し論理的思考力を養う。
- イ 学習指導要領、高大接続改革に対応した多様な分野の進路実現を可能にする教育課程を編成し、きめ細やかな科目選択指導を行う。
- ※ 生徒自己診断「科目選択の決定についての説明や相談は十分であった」の肯定率85%以上を維持する（R4:89%、R5:85%、R6:90%）。「選択科目につ  
いて選みたい科目を選べた」で85%以上を維持する（R4:83%、R5:86%、R6:87%）。「選択科目は自分の進路選択とのつながりに満足している」で85%  
以上を維持する（R4:84%、R5:80%、R6:86%）。

## (3) 主体的に粘り強く学び続ける力の育成

- ア 学びが中心の規則正しい生活習慣を確立させ、全ての授業について主体的に意欲をもって粘り強く取り組む態度を養う。
- イ 学力生活実態調査や教育産業による学力分析システムを活用し、生徒一人ひとりの学習状況や課題を把握し、適切な指導や支援を行う。
- ウ 自習室や学校図書館等の学びの環境整備を進めて積極的活用を促し、生徒の自学自習を支援する。
- ※ 遅刻者数を令和9年度に2,800回以下にする（R4:3,847回、R5:4,056回、R6:3767回）。生徒自己診断において「学ぶことの意味について考え授  
業  
を大切にするようになった」の肯定率で85%以上を維持する（R4:82%、R5:82%、R6:86%）。「家庭学習を毎日した」を令和9年度には50%以上にす  
る（R4:35%、R5:36%、R6:36%）。

## (4) キャリア教育の充実及び進学実績の向上

- ア 3年間を見通した進路指導によって高い目標と明確な目的意識を育成し、生徒の興味・関心、適性・個性に応じた進路選択を支援する。
- イ 大学や企業等との連携、専門的知識や技能を有する人材の活用等の体験型進路学習を充実し、生徒の主体的なキャリア形成を支援する。
- ウ 国公立大学や難関私立大学進学を目標とする指導を充実し、進路指導部が統括する組織的な進学講習や教育産業の講習の活用等、学力向上を促す。
- ※ 生徒自己診断において「今宮総合学科で学んで自分の進路選択ができた」の肯定率85%以上を維持する（R4:77%、R5:81%、R6:88%）。  
「働くことの意味や職業について考え、理解が深まった」で85%以上を維持する（R4:84%、R5:84%、R6:87%）。「学校の授業・講習等だけで進路実  
現に必要な力があった」で80%以上を維持する（R4:68%、R5:67%、R6:83%）。「大学について理解することができた」で90%以上を維持する  
（R4:88%、R5:88%、R6:91%）。
- ※ 京大・阪大・神大・大阪公立大などの国公立大学への合格者数を令和9年度には40名以上とする（R4:19名、R5:25名、R6:15名）。
- ※ 関関同立+近、早慶上+MARCHの合格者の合計240名以上を維持する（R4:130名、R5:122名、R6:268名）。

## 2. 「和親協同」×「輝け個性」…自主自律の精神を重んじて、ともに切磋琢磨し、清清流刺とした校風を創る力の育成

## (1) 自主自律の精神の醸成

- ア 18歳成年を認識し、規範意識の向上など社会の一員としての基本的姿勢を養い、集団生活において責任をもった議論や行動ができるよう育成する。
- イ 消費者教育の充実やゲームやギャンブル等に依存しない教育を推進するとともに、健全で適切な勤労観や職業観を醸成する。
- ※ 生徒自己診断において「自分は積極的にルールの遵守やマナーの向上に努めた」の肯定率90%以上を維持する（R4:91%、R5:93%、R6:92%）。「今宮  
高校で学んで人として成長した」で90%以上を維持する（R4:87%、R5:88%、R6:90%）。

## (2) 生徒自治会を中心とした組織的な学校行事の企画・運営等による将来をみすえた自主性・自立性の育成

- ア 生徒自治会主催の学校行事等において、民主的で組織的な企画・運営が遂行できる生徒集団を育成する。
- イ 生徒による「服装自主規制」の精神を尊重し、生徒の規範意識やマナーの向上を生徒自身が考え行動する態度を養う。
- ※ 生徒自己診断において「学校行事やホームルームは活発で積極的に関わった」で85%以上を維持する（R4:83%、R5:83%、R6:86%）。「自分は文化祭  
や体育祭などの学校行事に積極的に参加した」で90%以上を維持する（R4:89%、R5:91%、R6:91%）。

## (3) 部活動基本方針が遵守され、地域に貢献する部活動の推進

- ア 自主性を尊重し、部活動基本方針を遵守した部活動の運営を推進する。

※ 部活動にかかる時間外勤務時間が年間720時間を超える教員をゼロにする。（R5:2名、R6:6名）。

イ 部活動による学校間連携や地域連携や活動の成果を発表する機会を拡充し、生徒が主役の魅力ある学校づくりを推進する。

※ 「本校は部活動基本方針に沿って部活動が行われている」を令和9年度には90%以上にする（R4:83%、R5:83%、R6:84%）。

### 3. 自ら問いを立てて行動し、新たなものを生み出す力の育成

#### (1) 探究学習の充実

ア 1年次「産業社会と人間」及び2、3年次「未来探究」において、「問いを立てる力」、「考える力」、「まとめる力」、「発信する力」を育成する。

イ SDGs について当事者意識をもって取組み、地域や大学と連携して審査や助言を受けながら学びを深め、高いレベルの発表ができるよう指導する。

#### (2) 情報リテラシーの育成

ア 正しい情報を収集、選択、活用する知識と技能を習得し、体験や経験に基づくオリジナリティ性をもって編集、発信する能力を育成する。

イ 生成 AI などの新たな技術やサービスを適切に利用する資質を養う。

※ 生徒自己診断「自ら課題を発見し、自分の身の回りから社会を変革する力がついた」の肯定率を令和9年度には80%以上にする（R4:76%、R5:72%、R6:78%）。『産業社会と人間』や『未来探究』では探究的な学びができた」で85%以上を維持する（R4:84%、R5:84%、R6:88%）。

### 4. 多様性を尊重し、「人・社会・世界」と繋がり共生社会をリードする力の育成

#### (1) 共生推進教室を中心に仲間づくりを進め、「ともに学び共に育つ」インクルーシブ教育を推進する。

※ 生徒自己診断「『ともに学びともに育つ』大切さを学ぶ機会があった」の肯定率を令和9年度には92%以上にする（R4:85%、R5:85%、R6:89%）。

「互いに認め合い協力して良いクラスづくりを進めることができた」で88%以上を維持する（R4:85%、R5:85%、R6:89%）。

#### (2) さまざまな人権問題に取り組み、自他の尊厳や多様性を尊重し、互いの違いを認め合い共に生きる教育を推進する。

※ 「命の大切さや社会のルール、人権を尊重することの大切さについて学ぶ機会があった」で90%以上を維持する（R4:92%、R5:92%、R6:95%）。

#### (3) 国際交流活動の充実及び外国語運用能力の向上

ア アメリカ、オーストラリア、台湾の姉妹校との交流を通じて親交を深め、異国の文化や伝統等を理解し尊重する態度を養う。

イ 対面での交流のほかオンラインによる海外の学生等との交流の機会を通じ、生徒の視野を広げ、地球規模の諸問題に挑戦する技量を養う。

ウ 英語4技能を総合的に伸ばす英語教育を推進し、2年終了時までに英検2級レベル以上の英語運用能力の習得をめざす取組みを組織的に行う。

※ 「本校は国際交流に力を入れている」で90%以上を維持する（R4:62%、R5:90%、R6:93%）。「本校はSDGsの取組みを推進している」を令和9年度には85%以上にする（R4:82%、R5:77%、R6:78%）。

※ 英検2級以上の英語力を取得する生徒の割合を令和9年度には25%以上とする（R5:8.8%、R6:13%）

#### (4) 令和6年度学校経営推進費事業「『風を起こす』—すべての人を大切に、真に共生社会をリードする人材育成校の実現と発信～ともに学び、ともに育つインクルーシブルームとリラックスルームの設置」の実施

ア インクルーシブルーム、リラックスルームを活用した生徒の居場所づくりを進め、支援教育及び教育相談に係る教育力向上や体制づくりを進める。

イ インクルーシブルームを利用して「仲間の会」を中心とした総合学科と共生推進教室の生徒との交流を深め、地域を交えたイベントを開催する。

ウ インクルーシブルームを活用して、アクティブ・ラーニングや視覚支援、共同学習等の授業を実践して公開する。

※ ①共生推進教室卒業生アンケートにおける「共生推進教室設置校で学んだこと」の肯定感（10段階の満足度）8.7以上を維持する（R4:8.6、R5:該当なし、R6:9.1）。

②「仲間の会」の定例会を毎月開催し、インクルーシブルームを活用した懇親会等のほか、主催するイベントを年6回以上行う。令和9年度には仲間の会会員25名以上にする。

③学校教育自己診断（生徒）での「担任の先生以外にも保健室や相談室等で気軽に相談できる先生がいる」の肯定率を令和9年度には75%以上にする（R4:67%、R5:66%、R6:74%）。

④学校教育自己診断（保護者）での「子どもは心身の健康について気軽に先生に相談できた」の肯定率を令和9年度には77%以上にする（R4:73%、R5:68%、R6:70%）

⑤教職を志す生徒数（教員養成課程等の大学進学者数）8名以上を維持する（R4:9名、R5:3名、R6:20名）。

⑥本事業の成果報告会の実施

### 5. V(変動性)U(不確実性)C(複雑性)A(曖昧性)の時代を乗り越える教職員集団「チーム今宮」の形成

#### (1) めざす学校像や育てたい生徒像の実現に向けて、すべての教職員が相互に資質を高め合う同僚性の高い職場づくりを進める。

ア 分掌・学年・教科の持続可能な協働体制を確立し、すべての教職員が主体的に学校運営に参画し働きがいを感じる教職員集団を組織する。

イ すべての生徒の安全・安心を確保し、様々な危機管理体制を整備するとともに、SCやSSWを活用する等、生徒との対話を重視した体制をつくる。

ウ 喫緊の課題に対応できるO（観察Observe）O（情勢判断Orient）D（意思決定Decide）A（行動Act）ループを可能にする教職員集団をつくる。

エ 人権教育や防災教育、授業改革やICT活用の推進、生徒指導や進路指導のスキル向上など教職員の資質向上に寄与する研修を効果的に実施する。

オ ICTを活用した会議運営や情報共有等の業務の効率化や生産性の向上を進めるとともに、全校一斉定時退庁日を徹底し、働き方改革を推進する。

※ 教職員自己診断「本校がめざす学校像を実現するために、教職員は同僚性を高め、協力して教育活動を行っている」の肯定率85%以上を維持する（R4:68%、R5:84%、R6:85%）。「運営委員会は十分に機能している」で90%以上を維持する（R4:83%、R5:96%、R6:96%）。「校内研修組織が確立し、計画的に研修が実施されている」で90%以上を維持する（R4:76%、R5:90%、R6:92%）。「生徒による問題行動が起こった時、組織的に対応できる体制が整っている」で90%以上を維持する（R4:79%、R5:96%、R6:98%）。「本校は計画的に人材育成を行っている」で80%以上を維持する（R4:50%、R5:73%、R6:84%）。「いじめ防止基本法に基づいて、いじめについて適切に対応している」で90%以上を維持する（R4:89%、R5:98%、R6:100%）。「本校は地震や災害の際の対応を十分に知らせている」で90%以上を維持する（R4:78%、R5:92%、R6:90%）。「本校は有効的にICT機器を活用している」で90%以上を維持する（R4:94%、R5:98%、R6:100%）。「施設・設備については日常的に点検や管理が行われている」を令和9年度には90%以上にする（R4:80%、R5:96%、R6:85%）。生徒自己診断「先生方は生徒の意見をよく聞いてくれる」の肯定率を令和9年度には85%以上にする（R4:82%、R5:80%、R6:82%）。「本校では地震や火災の際の対応は知らされている」を令和9年度88%以上にする（R4:72%、R5:79%、R6:86%）。

※ ストレスチェックの総合指数85以下を維持する（R4:102、R5:76、R6:68）。

#### (2) 社会に開かれた学校づくりの推進

ア ホームページを充実させ、SNS、配信動画サービスを活用するとともに、学校説明会や中学校訪問を充実し、本校教育実践の公開に努める。

イ 対面形式に加え、学習支援クラウドサービスやメール配信サービスを利用した保護者への情報発信をきめ細やかに行う。

- ウ PTA、同窓会との連携を強化し、力を合わせて魅力ある学校づくりを進める。
- エ 土曜教養講座や地域連携の取組みを充実し、地域に貢献する学校づくりを進める。
- ※ 保護者自己診断「学校のホームページなど広報活動は充実していた」の肯定率88%以上を維持する（R4:78%、R5:85%、R6:95%）。「学校は教育情報について提供の努力をしている」で85%以上を維持する（R4:78%、R5:86%、R6:93%）。「PTA活動は活発である」で90%以上を維持する（R4:86%、R5:93%、R6:95%）。生徒自己診断「本校は様々な地域の活動に参加・貢献している」の肯定率で80%以上を維持する（R4:73%、R5:72%、R6:81%）

## 【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

| 学校教育自己診断の結果と分析 [令和7年12月実施分]   | 学校運営協議会からの意見   |
|---|--|
| <p>学校生活をより充実したものとするため、生徒、保護者の皆様と教職員に対して、学校教育活動や取組みに関するアンケート「学校教育自己診断」を12月中旬に実施。</p> <p><b>【今年度の傾向】</b> 質問項目は生徒44、保護者34、教職員46。うち肯定的回答の割合が前年度より増加した項目は、生徒39(88.6%) [R6:95.4%]、保護者31(91.2%) [R6:91.2%]、教職員26(56.5%) [R6:73.9%]であった。今年度は全般的に高止まりの傾向がみられた。その中、生徒及び保護者について9割程度の項目で前年度より良い結果になった。昨年度に引き続き「風を起こす」をスローガンに掲げ、様々な取組みを行ってきた成果が、生徒や保護者に実感として伝わっていると評価できる。また、特に1年次の肯定的回答率が高かった。一方、教職員は一層高止まりの傾向が強く、中には昨年度より肯定的回答が減じた項目も散見され、生徒、保護者、教職員ともに各項目において細やかな分析を行った。回答率は、生徒82.9% [R6:87.9%]、保護者81.3% [R6:71.8%]、教職員82.0% [R6:85.2%]。</p> <p><b>【学校満足度】</b> 生徒①及び保護者①「今宮総合学科で学んでよかった」は過去6年間で年々増加し、今年度は、生徒①で95.0% [R6:90.6%]、特に1年次は99.5% [R6:88.9%]と顕著な上昇が認められ、保護者①も94.5% [R6:93.3%]と高い水準を維持している。また、生徒②「学校生活や学校行事においても総合学科らしさを感じることができた」は93.3% [R6:92.3%]、保護者②「この学校には他の学校にはない特色があり、独自の教育活動に取り組んでいた」は93.4% [R5:92.3%]と昨年度に引き続き90%を超える肯定的回答が得られた。(1)伝統校、(2)総合学科、(3)共生推進教室設置校の3つの特長を生かした共生社会のリーダー育成校としての教育方針を明示し、具体的な取組みを進めてきたことが、他校にはない特色づくりを行っているとの認知が浸透したといえる。また、今年度はアメリカ・ワシントン州及び台湾の姉妹校2校の学生が来校し親交を深めることができた。さらに、オンライン交流による国際交流活動を積極的に進め、また、3月にはアメリカの姉妹校へ生徒10名が訪問し交流する予定である。生徒③、保護者④「本校は国際交流に力を入れている」は生徒95.3% [R6:92.8%]、保護者96.6% [R6:94.7%]と極めて高く、その成果が大きく表れている。また、生徒⑤、保護者⑥「学校の施設・設備に満足できた」は生徒88.2% [R6:86.2%]、保護者80.8% [R6:79.4%]と前年度より上昇し、概ね高い満足度が得られている。今年度学校経営推進費事業によるインクルーシブルーム及びリラックスルームの整備、DX加速化推進事業による食堂スペースの空調化や多目的化リニューアルが実現し、食堂の利用やスペース稼働率も飛躍的に伸長した。より快適な学び舎の整備に努めながら、学校の特色づくりを精力的に進めているところである。</p> <p><b>【学習・進路指導等】</b> 生徒⑦「先生方は教え方に工夫をするなど授業に熱心だった」は90.6% [R6:86.4%]と7年連続上昇し、初めて90%を超えた。また、生徒⑧「学ぶことの意味について考え、授業を大切にすることになった」は88.5% [R6:85.7%]、生徒⑨「学校の授業・補講等を受けることで進路実現に必要な力がついた」は86.8% [R6:82.8%]とこの3年間で20%を超える顕著な上昇が認められるが、保護者⑦「学校の授業・講習等だけで進路実現の力が付いた」は49.2% [R6:40.8%]と昨年度より大きく上昇したものの依然生徒との明らかな乖離が認められる。これは、生徒⑩「家庭学習を毎日した」45.3% [R6:36.4%]、保護者⑧「子どもは家庭学習を毎日している」39.9% [R6:38.3%]が示すとおり、改善は認められるものの、家庭学習習慣が定着していない生徒が依然多いことに起因すると考えられる。このことは学力生活実態調査の結果からも裏付けられており、自学自習の習慣をつけることが継続して喫緊の課題となっている。生徒の自学自習の習慣づけや、授業等で学んだ内容の発展的学習を、生徒が自発的に進めることについて、宿題を課して成績に反映させるなどの負荷をかけないと継続した学習ができない生徒が多数いる状況を打破して、高い志を持って学び続ける生徒集団をつくる効果的な仕掛けをさらに一歩踏み込んで考えたい。生徒⑪「自分は今宮高校で学んで人として成長した」93.4% [R6:90.1%]、生徒⑫「自分は今宮総合学科で学んで自分の進路選択ができた」91.9% [R6:88.4%]は前年度よりさらに上昇した。生徒⑬「自分の適性や進路について考えるようになり、進路希望が具体的になった」87.5% [R6:84.0%]、生徒⑭「大学について理解することができた」93.4% [R6:90.9%]、生徒⑮「働くことの意味や職業について考え理解が深まった」90.2% [R6:87.4%]といずれも継続して顕著な上昇が認められ、前々年度までの上げ止まりの傾向から脱して生徒の主体的な進路選択がなされるようになってきたと言える。このことは、総合学科の肝である科目選択にかかるガイダンス機能が十分に作用していたか、それによって生徒一人ひとりの意に沿った科目選択ができたかの評価によるところが大きい。生徒⑯「選択科目の決定についてのガイダンスは十分であった」89.1% [R6:88.9%]、生徒⑰「進路希望や科目選択の指導はきめ細かく適切に行われた」89.1% [R6:89.7%]、進路関係の情報提供については、生徒⑱「学校は将来を考えたり調べたりするきっかけや情報を提供している」91.9% [R6:90.9%]、生徒⑲「学校には進路指導室など将来を考えたり調べたりする設備や環境が整っている」86.3% [R6:86.1%]、保護者⑨「学校は生徒の進路指導について熱心に取り組んでいた」81.3% [R6:80.8%]、保護者⑩「学校は進路についての情報をよく知らせてくれた」78.4% [R6:75.4%]と、進路決定や科目選択にかかる情報提供や指導についての評価はほぼ昨年度並みか微増程度で、今年度新たな「風を起こす」実効性のある取組みができなかったことに起因していると分析する。生徒⑳「科目選択は自分の進路選択と</p> | <p><b>【第1回〈R7/7/9〉】</b><br/>○今年度初めての協議会にあたり、本協議会規約をはじめ、学校経営計画、今年度の校内組織体制、年間行事予定、本校のスクールポリシー及びスクールミッション、教科書選定資料、総合的な探究の時間等教育計画、人権教育計画、地域連携土曜講座、外部での学校説明会一覧、学校案内パンフレット、冊子「風を起こす」等の資料配付のうえ内容を確認するとともに学校経営に係る以下の意見をいただいた。<br/>○めざす学校像について<br/>「伝統校・総合学科・共生推進教室設置校」を本校教育の強みの「三種の神器」として明確に打ち出したのは分かりやすく、これからの社会が求める人材に合致している。<br/>○「学校特色枠」について<br/>学力が大切であることをシンプルにアピールすることは良い。英語と数学の学力検査を2倍にする理由(国際的なコミュニケーション力と数理的思考力が要求されること)をしっかりと記載することでメッセージが伝わる。英語を頑張っておくと大学に入学してから幅広く活用できると感じている。高校でも入試の成績と入学後の実状を確認することも重要ではないか。文系でも抽象的・論理的な数学的思考力が求められることが伝わるように文章に記すのが良い。今宮総合学科の「授業を選べる良さ」と「英語・数学」を強化する部分をしっかり分けて広報する必要がある。中学校の調査書を倍にすることも検討しても良いと感じる。学校特色枠は3つまで選択できるので、もう1つ設定して特色の幅を広げる方法もある。学校説明会時にクラブ体験して入学した生徒は活躍してくれている。入学者選抜で、入学してからの頑張りをどう引き出すか。例えば運動に向かって真摯に頑張れる生徒をどう評価するか。大学では頑張れる学生とどう確保するかをめぐしている。多岐にわたる意見が出されたが、原案通りでよいことになった。</p> <p><b>【第2回〈R7/9/25〉】</b><br/>○探究学習発表について<br/>(2年→3年→1年の順で巡回し見学)<br/>《テーマ》<br/>3年：個人の進路に繋がるテーマ<br/>2年：興味関心のあること(グループ)<br/>1年：進路探究(基礎的な探究)<br/>どの学年もまとまった発表であった。短い時間でテーマも面白い発表だった。プレゼンのトレーニングになっていると感じた。2年のグループ探究は難しいと感じた。伝える力の育成や人の価値観に触れる時間になっている。小学生からICTを使用したプレゼンをしているので慣れていていると感じた。「発表=伝える」力がこの時間に深まる必要がある。気づきが学びに繋がっていた。「調べること」から「探究」へ移行する難しさを感じた。スライドの工夫や話す内容を聴くことや伝えることの中で成長がある。生徒に貸与しているPCをどう活用させるのが課題。科学的な探究では対照実験等、研究の基本を教員がきちんと教えることが重要。どんなテーマを選んだとしても、企画→計画→実施→結果(結論)の道筋を明確にすることが必要。発表時にスマホの使用はやめたほうが良い。誰の意見なのか明確に示して発表すべきである。考え方や調べ方を教員側でも共有しておけばスムーズに実施できる。</p> |

## 府立今宮高等学校

のつながりに満足している」87.6% [R6:85.7%]、生徒㉒「選択した科目については選びたい科目を選べた」87.5% [R6:86.9%]。科目選択は、系列に係る教育課程編成上の制限や教員数の問題などがあり、もともと全生徒の希望を叶えるものではないが、進路決定と科目選択をリンクさせたガイダンス機能は総合学科の肝であり、次代を先取りした新たな学校設定科目の設定や、生徒のニーズに合致したカリキュラム・マネジメントを検討し続けることが肝要である。今年度は、昨年度より肯定的回答が増加した。生徒一人ひとりに対するきめ細やかなガイダンス及び科目選択指導の効果が認められる。

**【探究的学習・人権教育の推進等】** 本校の1年次「産業社会と人間」及び2、3年次「総合的な学習の時間」は、3年間で5単位実施している。その中で進路ガイダンスやクラスづくりに関わることの時間も確保しているが、キャリア教育、探究的学習及び人権教育を柱とした学びを展開している。1、2年次はグループで、3年次は個人でテーマを決めて探究学習を行い、3年次は10月下旬に、2年次は地域でのフィールドワーク等を通して学習を深め、クラス予選を経て1月に学年全体で発表会を実施しており、今年度も同様に行った。一方、1年次の探究的学習では、前年度の反省から全体発表会を設定せず、探究学習のレベルアップを図るため、その手法について学習する時間を確保し、「世界と日本」「地域課題」といったテーマで実践的学習を重ねた。全体を通して、今年度は生成AIを利用して調査のためのアプリを作製して探究を進めた個人やグループが目立った。今後、生徒の自発的な探究的学習活動において、生成AIの利活用が大きく影響すると考えられ、必要な手続きを行ったうえで、令和8年度当初から生成AIの積極的な利活用がより進化かつ深化した学びを実現するポイントとなる。3年間の探究的学習のプログラムを再構築する時期に来ており、中期的な課題としたい。生徒④「自ら課題を発見し、自分の身の回りから社会を変革する力がついた」82.6% [R6:78.2%]、生徒⑩「この学校の授業では自分の考えをまとめたり発表したりすることがよくあった」90.7% [R6:89.5%]、生徒㉔「未来探究では探究的な学びができた」90.8% [R6:87.7%]、生徒㉕「『産業社会と人間』『未来探究』では研究や発表など創意工夫できる機会を豊富にもつことができた」89.7% [R6:90.6%]、ただし1年次は92.5% [R6:89.8%]。1年次での新たな取組みは一定の成果が認められる。人権学習については、社会における様々な人権問題について外部講師を招くなど継続して積極的に進めてきた。また、6年前に共生推進教室設置校となり、インクルーシブ教育をリードする実践校としての取組みを精力的に進めているところである。引き続き本校の重点項目である「共生社会をリードする人材育成」を果たすべく心豊かな人権感覚を育成する教育を継続的に進める。生徒㉖「命の大切さや社会のルール、人権を尊重することの大切さについて学ぶ機会があった」95.0% [R6:94.6%]、生徒㉗「障がいがある人たちと『共に学び共に育つ』大切さを学ぶ機会があった」90.1% [R5:89.4%]。また、その際、生徒に対して本質的な内容に触れた指導が行われるように教職員に対する研修を十分に行う必要がある。大阪府人権白書を全教職員に配付、人権教育推進委員会を軸に今年度も外部講師を招いたり、フィールドワークを行ったりする等の取組みの成果が得られた。教職員㉘「人権尊重に関する様々な課題や指導方法について全教職員で話し合っている」92.0% [R6:84.6%]

**【生徒指導等】** 生徒㉚「自分は互いに認め合い協力して良いクラスづくりを進めることができた」92.2% [R6:89.5%]、生徒㉛「学校行事やホームルーム活動は活発で積極的に関わっていた」87.7% [R6:86.1%]、生徒㉜「学校ははじめについて困っていることがあれば真剣に対応してくれる」89.3% [R6:88.9%]、生徒㉝「先生方は生徒の意見をよく聞いてくれる」81.6% [R6:81.9%]、生徒㉞「担任の先生以外にも保健室や相談室等で、気軽に相談することができる先生がいる」75.1% [R6:74.5%]と、㉞は電車の遅延に係る遅刻の取扱いを教育の観点から厳格に行っていることの影響で0.3ポイント減少したと思われる以外は、すべて肯定的回答が増加している。リラックスルーム（教育相談室）の昼休み時間の開室や、教職員のきめ細やかなサポートを受けながら、概ね生徒が主体的に働き、良好な人間関係やクラスづくりが進められていることが伺える。生徒㉟「学校における生徒指導等や遅刻防止、服装の規律保持などの指導には納得できる」73.9% [R6:73.0%]、生徒㊱「自分は積極的にルールの順守やマナーの向上に努めた」91.2% [R6:91.7%]。遅刻数は遅刻の定義を厳格化した前年度当初遅刻数は増加したが、今年度は目標とする昨年度比10%減を大きく超え、前年度比21.3%減を達成している。寝坊等による遅刻数が顕著に減少するなど、多数の生徒はルールを守って規則正しい生活ができています。保護者からも前年度より高い支持が得られており、生徒一人ひとりの内面に切り込みながら、安易に生徒に迎合することなく今後も粘り強い指導を進めていく。保護者㊲「学校は生徒に対する生活指導や遅刻防止、服装の規律保持などによく取り組んでいた」88.5% [R6:87.9%]

**【行事・部活動・コミュニケーション】** 生徒㊳「自分は文化祭や体育祭などの学校行事に積極的に参加した」93.5% [R6:91.4%]、保護者㊴「子どもは文化祭・体育祭・宿泊行事などの学校行事に積極的に参加していた」95.0% [R6:93.6%]と、生徒、保護者ともに90%を大きく超える高い肯定的回答率を維持している。生徒㊵「この1年間、自分は部活動を熱心に取り組んだ」71.5% [R6:70.5%]、保護者㊶「この学校の部活動は活発であった」85.5% [R6:84.1%]、生徒㊷、保護者㊸「本校は部活動基本方針に沿って部活動が行われている」生徒86.7% [R6:84.1%]、保護者87.3% [R6:81.1%]と昨年度比で肯定的回答が増加しており、部活動においても基本方針に沿って7割を超える生徒が熱心に取り組んでいることが伺える。また、保護者との連絡や連携については、多くの項目で高い水準でさらに肯定的回答の割合が増加した。学校ホームページや各公式ブログ、保護者進路説明会のオンデマンド配信など学年や分掌単位、また、部活動での学校支援クラウドサービス等を利用した連絡事項の伝達や教育の取組みをきめ細やかに発信してきたことの成果が認められる。今後も丁寧な連絡、連携に努めたい。保護者㊹「学校は進路についての情報をよく知らせてくれた」78.4% [R6:76.4%]、保護者㊺「学校のホームページなど広報活動は充実していた」96.6% [R6:95.1%]、保護者㊻「学校が出す文書・事務連絡などは適切であった」95.0% [R6:93.9%]、保護者㊼「学校は保護者が授業を参観する機会をよく設けていた」83.1% [R6:82.0%]、保護者㊽「学校は教育情報について提供の努力をしている」91.7% [R6:90.4%]

○創立120周年記念切手の発行について  
歴史を感じる良い記念になるものができる。

○「学校特色枠」最終稿の承認

○PTA入会率について  
入学時に説明したうえで100%加入の学校は、公立高校でなかなかない。本校ではPTA活動の意義と役員・実行委員の熱意が伝わっている。

○生徒の健康と時間のマネジメントについて  
授業中に居眠りする生徒が減ったが、十分に睡眠を取れない生徒が多いように感じる。校時に睡眠を取り入れる等、できないことを突破する発想が必要。小学校でも自由な時間が減り詰込みになっている感がある。

○探究学習について  
放置自転車の問題などを改善するための工夫などを商店街で検討しているが、いろいろな発想について確かなエビデンスを作って実践することが肝要。茨木でオープンスペースの活用について高校生が検討しているプロジェクトがあるが、参考になるのでは。AIを積極的に活用させることを高校でも考えていくべき。大きな世界の枠を知ることが、違う視点や考えをもつことができる。

○学期制について  
2学期制の導入を検討するメリットとデメリットを検討してもよいのでは。

○広報について  
私学には特待生制度等の特典や、授業料が無償になる等で、中学校から私学を選ぶ人が増加している。今宮高校ではオープンスクールで保護者が幟を持って案内する等の実践ができているのはとてもいい雰囲気だった。また、今宮高校は学校独自の講習やそのサポートがあるので、とても助かった。進学実績の向上を期待する。

○大学入試について  
面接の方法を検討している。「何を頑張りましたか？」と良い部分を聞いていたが、「何が足りないか？」を聞く面接にしたい。足りない部分があるから、「大学では〇〇を頑張りたい」という学生を合格させる必要がある。進路指導の参考に。

**【第3回（R8/1/22）】**

○生徒の意識と生活習慣について  
家庭学習と遅刻などの問題は、生活習慣とリンクしている。これからは自律を求められる。浪速区では放置自転車の対策を徹底している。戎橋商店街で自転車を留めようとしている1400人に話しかけ駐輪場に入れない理由を聞くと、「みんなが留めているから」「お金を払いたくない」「店の前に駐輪場がない」等が多かった。放置自転車撤去の取組みを続けた結果、歩く人が増え大阪メトロの利用者が多くなった。遅刻指導については、このように追及して行動変容を求めることも必要では。「挨拶」など小さなことの積み重ねが意識の変容と生活習慣の改善に関わってくる。

○SDGsの取組みについて  
自己診断ではSDGsの項目は停滞しているが、内容は半世紀も前から言われていることであり、生徒が取り組んでいるペットボトルキャップや古着の回収&寄附等の実生活の地道な行動がSDGsの取組みに繋がると伝えればよい。浪速区役所でHOYAと連携協定を結び、コンタクトレンズケースを集めてリサイクルを行っているが予想以上に集まった。アフリカの貧困問題をテーマにした学生に大阪の貧困問題に触れる機会を作ったら大きな気づきがあった。

○令和8年度学校経営計画  
新たな項目として、「労働安全衛生管理体制の充実及びVUCAの時代を乗り越える教職員集団「チーム今宮」の形成」を掲載、了承された。

○探究学習について  
今年は探究テーマについて生徒の興味・関心など自由に設定できるようにした。良いものを外部のコンテストに応募した。京都の探究文化祭など外部コンテストで発表する。

○学校評価について  
「誰が?」「どう、次にいかすのか?」次年度の

府立今宮高等学校

|   |   |
|---|---|
| <p><b>【学校運営等】</b> 教職員⑫「本校がめざす学校像を実現するために教職員は同僚性を高め協力して教育活動を行っている」84.0% [R6:84.6%]、教職員⑬「運営委員会は十分に機能している」96.0% [R6:96.2%]、教職員⑭「本校は計画的に人材育成を行っている」90.0% [R6:84.6%]、教職員⑮「校内研修組織を確立し計画的に研修が実施されている」90.0% [R6:92.3%]に見られるように、教職員の組織体制に関する項目は大きく上昇した一昨年度、さらに上昇した前年度から停滞し、むしろ下降傾向が見受けられる。教職員の回答数は50であるため、例えば肯定的回答が96%の⑬については、3年連続で否定的回答数が2あることに注目することが重要である。このような少数の意見の中に学校運営をより良くするポイントがあることが多く、全教職員と真摯に向き合い、対話を深め、より良い学校経営に努めたい。また、教職員の危機管理意識や学校としての備えや体制に関する項目については、前年度より肯定的回答が増加した。継続して重点的に取り組みたい。教職員⑯「施設・設備については日常的に点検や管理が行われている」94.0% [R6:84.6%]、教職員⑰「本校は地震や災害の際の対応を十分に知らせている」98.0% [R6:90.4%]。これらは積極的肯定の回答率は今年度も継続して増加しているため、保健部や安全衛生委員会、事務室等を中心とする積極的な取組みが、教職員の危機管理意識の向上に一定繋がっていると評価できる。教職員⑱の積極的肯定率46.0% [R6:36.5%、R5:29.4%]、教職員⑲の積極的肯定率52.0% [R6:48.1%、R5:33.3%]。教職員⑳「この学校はいじめ防止基本法に基づいていじめについて適切に対応している」98.0% [R6:100%]、教職員㉑「生徒による問題行動が起こった時、組織的に対応できる体制が整っている」96.0% [R6:98.1%]、教職員㉒「学校は生徒のプライバシーや個人情報を守っている」96.0% [R6:90.4%] これらの項目は100%で当然という認識を持って継続して真摯に取り組む。</p> | <p>取組みにどう生かすのか。府教委からの指示に沿うところもあるだろうが、学校としての主体性が重要。中学校でも学校経営計画及び学校評価がある。大阪市全体の目標もあるが、細かな数値目標は学校状況により、柔軟な部分が多い。大学でも文科省から指示が出ている。「何を？どう評価するのか？」という観点から評価する側が持っているべきである。ジャビーになる上で、それぞれの大学で目標を設定する、次のために改善できているか、を評価する。防災意識等も数値でなく意識が変わるだけでも大きな成果である。「何を」「どう改善させるのか？」を決めておくべきである。「風を起す」冊子のように、数値による評価ではなく、エピソードを示し共有することによって学校の教育活動を評価し発信することも需要。<br/>○生徒の主体性について<br/>昨日2年「百人一首大会」があった。2年生は覚えた方が楽しいと、自発的に教室や廊下に歌を貼って覚えていた。また、生徒議会を開催して自治会則改定の議論をする等、主体的な取組みが芽生えてきたのは素晴らしい。</p> |
|---|---|

3 本年度の取組内容及び自己評価 ([ ] 内はR6の数値)

| 中期的目標                              | 今年度の重点目標  | 具体的な取組計画・内容  | 評価指標[R6年度値]   | 自己評価   |
|------------------------------------|---|--|---|--|
| 1. 誠実剛毅に高い志を持って学び続け、自らの進路を切り拓く力の育成 | (1) 高い知性と確かな学力の育成                                   | (1)  | (1)   | (1)  |
|                                    | ア 授業改革の推進   | ア 「指導と評価の一体化」を進め、「思考力・判断力・表現力」の伸長を重視した授業改善を全校で取り組む。  | ア 生徒自己診断「先生方は授業に熱心の肯定率87%以上[86%]、「授業で自分の考えをまとめ発表することがよくある」の肯定率90%以上を維持[90%]・第2回授業アンケートの質問8、9の平均値3.33以上を維持[3.345]                                    | ア 「授業に熱心」90.6% (◎)、「よく発表する」90.7% (○)。授業に熱心は年々向上し始めて90%を超えた。教員の授業力の全体的に向上し、熱心さが伝わった。<br>・第2回授業アンケート質問8、9の平均値3.405 (◎) 学習の深化が伝わっている。 |
|                                    | イ ICT活用の充実  | イ DX加速化推進事業で整備した食堂スペースでの教育活動を実践する。   | イ 生徒自己診断「有効にICT機器を活用」の肯定率90%以上を維持[92%]  | イ 「ICT機器を活用」88.2% (△)。生成AIの利活用等新たな授業開発をめざす。  |
|                                    | (2) 豊かな知性を磨く教育課程の編成                                 | (2)  | (2)   | (2)  |
|                                    | ア 特長ある教育課程の編成                                       | ア 「したい授業・学びたい授業」ができる教育課程策定のための資料の収集・分析し、課題と到達点を共有する。   | ア 教職員自己診断「めざす学校像実現のために教職員は同僚性を高め協力する」の肯定率80%以上を維持[85%]  | ア 「同僚性を高め協力」84.0% (○) 目標は達成。概ね良好な職員集団が形成されていると評価できる。   |
|                                    | イ 科目選択指導の充実   | イ 教科・学年・分掌の協働によるきめ細やかな科目選択指導を行う。   | イ 生徒自己診断「科目選択の決定についての説明や相談は十分」の肯定率85%以上を維持[89%]   | イ 「科目選択のガイダンスは十分」89.1% (○) 目標達成。さらに教科・学年・分掌の協働を心掛けたガイダンスに努める。  |
|                                    | (3) 学び続ける力の育成                                       | (3)  | (3)   | (3)  |
|                                    | ア 規則正しい生活習慣の確立                                      | ア 誠実剛毅に授業に向かう姿勢をつくる指導を全教員で行う。  | ア 遅刻者数を前年度の90%以下にする[3,767回]   | ア 遅刻者数2,523回(R7.12月現在) (◎) 目標を大きく上回り改善している。  |
|                                    | イ きめ細やかな学習指導  | イ 学力生活実態調査結果を分析し年間通してきめ細やかな学習指導を行う。  | イ 生徒自己診断「授業を大切にしようになった」の肯定率85%以上を維持[86%]  | イ 「授業を大切に」88.5% (◎) 毎年向上している。見学しても意欲的に学ぶ生徒が圧倒的に増えていると感じる。  |
|                                    | ウ 自学自習習慣の定着   | ウ 教育のあらゆる機会を捉えて、生徒の成長を促す。  | ウ 生徒自己診断「家庭学習を毎日した」の肯定率38%以上[36%]   | ウ 「家庭学習を毎日」45.3% (◎) 今年度初めて飛躍的に向上したが、さらに高める必要がある。  |
| (4) キャリア教育の充実                      | (4)   | (4)  | (4)   |  |
| ア 進路指導体制の充実                        | ア 分掌・学年・教科の協働による3年間の進路指導体制を確立する。                    | ア 生徒自己診断「自分の進路選択ができた」の肯定率85%以上を維持[88%]   | ア 「進路選択ができた」91.9% (◎) 学年団のきめ細やかな指導が評価された。   |  |
| イ 体験型進路学習の充実                       | イ 1年大学訪問や各分野で活躍する外部講師による学びを通じてキャリア形成を支援する。          | イ 生徒自己診断「働くことの意味や職業について考え理解が深まった」の肯定率85%以上を維持[87%]   | イ 「働くことの意味」90.2% (◎) 特に1年次で94.2%と高い回答を得た。学年の細やかで熱心な取組みが評価された。   |  |
| ウ 進学講習の充実                          | ウ 教育産業による校内講習を導入する等、全校的な取組みとして進学講習を充実し、より高い学力向上を促す。 | ウ 生徒自己診断「進路実現に必要な力がついた」の肯定率80%以上を維持[83%]、「大学について理解できた」の肯定率88%以上を維持[91%] 国公立及び難関私立大学合格者の合計240名以上を維持[268名] | ウ 「進路実現に必要な力」86.8% (◎) 外部講師による校内予備校の継続実施の他、教員による進学講習が充実した。「大学を理解」93.4% (◎)、1年次での見学会等「知る機会」の充実を図った。国公立及び難関私立大学合格者延べ人数合計203名であったが、実進学者数は昨年度を上回った (○)。 |  |

## 府立今宮高等学校

|   |   |   |   |   |
|---|---|---|---|---|
| <p>2. ともに切磋琢磨し、<br/>清濁を測りながら校風を創り出す力の育成</p> | <p>(1) 自主自律の精神の育成<br/>ア 規範意識の向上<br/>イ 成人に求められる資質の育成</p> <p>(2) 生徒自治会活動の充実<br/>ア 生徒自治会組織の強化<br/>イ 自立した生徒集団の育成</p> <p>(3) 部活動の充実<br/>ア 主体的な部活動の充実<br/>イ 地域貢献の拡充</p> | <p>(1)<br/>ア 18歳成年を意識した学び(権利と義務、政治参画等)を積極的に行う。<br/>イ 2年次で外部講師による消費者教育を実施する他、健全な勤労観や職業観を醸成する取組みを行う。</p> <p>(2)<br/>ア 生徒自治会組織による自立した学校行事等の企画・運営を行う。<br/>イ 生徒が主体となって全生徒が安心できる居場所となるクラスや学校づくりを行える生徒集団を育成する。</p> <p>(3)<br/>ア 基本方針に沿って運営し、生徒が主体の部活動の支援を行う。<br/>イ 近隣の保育園等への出前演奏会や地域のイベントへの参加等、部活動による地域貢献の機会を拡充する。</p> | <p>(1)<br/>ア 生徒自己診断「積極的にルールへの遵守やマナーの向上に努めた」の肯定率90%以上を維持〔92%〕<br/>イ 生徒自己診断「今宮高校で学んで人として成長した」の肯定率89%以上を維持〔89%〕</p> <p>(2)<br/>ア 生徒自己診断「学校行事に積極的に参加」の肯定率90%以上を維持〔91%〕<br/>イ 「学校行事やホームルームは活発で積極的に関わった」の肯定率85%以上を維持〔87%〕</p> <p>(3)<br/>ア 生徒自己診断「部活動基本方針に沿った活動」の肯定率85%以上〔84%〕<br/>イ 部活動による地域貢献活動の回数述べ10回以上を維持〔12回〕</p> | <p>(1)<br/>ア 「ルールへの遵守」91.2% (○) 服装自主規制について主体的に考える態度を育成し、自主自律の精神の涵養に努める。<br/>イ 「人として成長」93.4% (◎) フィールドワークや地域貢献の機会を拡充し、様々な人権課題にも取り組んだ。</p> <p>(2)<br/>ア 「学校行事に積極的に」93.5% (○) 生徒自治会会則改正案を生徒が作成、生徒議会やクラス討議を行った。<br/>イ 「ホームルームは活発」87.7% (○) 共生生徒とともに活動する機会を増やし、インクルーシブを充実させる。</p> <p>(3)<br/>ア 「部活動基本方針に沿った活動」86.7% (○) 勝ち残って公式戦が続くときもあるが、ほぼ計画通り実施できている。<br/>イ 大阪・関西万博や浪速区制百周年記念事業など、部活動のほか有志参加など新たな活動が盛んに行われた。20回 (◎)</p> |
| <p>3. 自ら問いを立てて行動し、<br/>新たなものを生み出す力の育成</p>   | <p>(1) 探究学習の充実<br/>ア 問いを立てる力の育成<br/>イ 探究学習の深化</p> <p>(2) 情報リテラシーの育成<br/>ア 適切な情報の収集・選択・活用能力の育成<br/>イ 編集・発信力の育成</p>   | <p>(1)<br/>ア 総探・産社委員会と学年、進路指導部が協働し、3年間を見据えた効果的な学習プログラムを実践する。<br/>イ 地域や大学等の支援を受けながら学習する仕組みを作る。</p> <p>(2)<br/>ア インターネットからの情報を適切に扱うとともに、実体験等それに頼らずに探究する力を育成する。<br/>イ 生成AIに真似できない発信する力を育成する。</p>   | <p>(1)<br/>ア 生徒自己診断「自ら課題を発見し、社会を変革する力がついた」の肯定率75%以上を維持〔78%〕<br/>イ 中間発表会の設定等、発表までの間に探究を深める機会を年1回設ける〔1回〕。</p> <p>(2)<br/>ア 生徒自己診断『「産社・未来探究」で探究的な学びができた』の肯定率85%以上を維持〔88%〕<br/>イ 生成AIについて学び体験する機会を年1回設ける。</p>   | <p>(1)<br/>ア 「社会を変革する力」82.6% (◎) キャリア支援を組み込んだ学習プログラムにより、社会参画意識が向上した。<br/>イ 学校運営協議委員等による中間発表会を1回行い、探究が深化した。(○)</p> <p>(2)<br/>ア 「探究的な学び」90.8% (○) フィールドワークや職業人インタビュー等を通じて探究を深めることができた。<br/>イ 生成AIを常時体験できる環境を提供した。アプリを作製するなど、生成AIを探究学習に生かし発表する生徒が多数現れた。次年度当初から全校一斉活用を実施。1月にそれに向けての職員研修を実施した。(○)</p>   |

|  |   |   |  |   |
|--|---|---|--|---|
| <p>4. 「人・社会・世界」とつながり共生社会をリードする力の育成</p> | <p>(1) インクルーシブ教育の推進<br/>ア 共生推進教室の充実<br/>イ 仲間づくりの推進</p> <p>(2) 人権教育の充実<br/>ア 体験的人権学習の充実<br/>イ 職員人権研修の充実</p> <p>(3) 国際交流の推進及び英語運用能力の向上<br/>ア 姉妹校との交流の充実<br/>イ 訪米交流の実施<br/>ウ 英語運用能力の向上</p> <p>(4) 令和6年度学校経営推進費事業『風を起こす』一すべての人を大切に、真に共生社会をリードする人材育成校の実現と発信～ともに学び、ともに育つインクルーシブルームとリラックスルームの設置』の効果的運用</p> | <p>(1)<br/>ア 共生推進教室生のカリキュラム及び学習支援を充実し、インクルーシブ教育を推進する。<br/>イ ボッチャ大会等の仲間づくりの機会を増やすとともに、互いの違いを認め合うクラスづくりに目を向け、能動的に取り組む生徒を育成する。</p> <p>(2)<br/>ア 様々な人権問題について、講演やフィールドワーク等を通じて当事者意識をもって行動する資質を育む。<br/>イ 新年度当初に講師を招いて新着任対象フィールドワークを実施する。</p> <p>(3)<br/>ア 7月にキャミアック高校との4日間の交流を本校にて実施する。<br/>イ 3月にキャミアック高校を訪問し、生徒間の親交を深める。<br/>ウ 1・2年英検受験を推奨し、英語運用能力向上の取組みを組織的に進める。</p> <p>(4)<br/>ア 「インクルーシブルーム」「リラックスルーム」を効果的に運用し、その活用や、支援教育、教育相談の教職員研修を実施し、本校全体でめざす授業について教職員が共有する。<br/>イ 「インクルーシブルーム」のを活用した模擬授業を実践する。<br/>ウ 「インクルーシブルーム」「リラックスルーム」を活用した、生徒の居場所づくり、交流の場となるイベントを企画する。</p> | <p>(1)<br/>ア 生徒自己診断『「ともに学びともに育つ」大切さを学ぶ機会があった』の肯定率86%以上を維持 [89%]<br/>イ 生徒自己診断「互いに協力して良いクラスづくりを進めることができた」の肯定率85%以上を維持 [90%]</p> <p>(2)<br/>ア 「命の大切さや人権を尊重することの大切さについて学ぶ機会があった」の肯定率90%以上を維持 [95%]<br/>イ フィールドワーク年2回開催。参加延べ人25名以上 [2回27名]。</p> <p>(3)<br/>ア 生徒自己診断「国際交流に力を入れている」の肯定率90%を維持 [93%]<br/>イ キャミアック高校訪問を実現させる。参加生徒10名以上。<br/>ウ 英検2級以上の合格者15% [13%]</p> <p>(4)<br/>ア 共生推進教室卒業生アンケートにおける「共生推進教室設置校で学んだこと」の肯定感8.7以上を維持[R6:9.1] 共生生徒と総合学科生徒が集う「仲間の会」の活動実績を積み上げる。会員20人以上[15人以上]。<br/>イ 学校教育自己診断(生徒)での「障がいのある人たちと『ともに学び、ともに育つ』大切さを学ぶ機会がある」の肯定率88%以上を維持 [89%]<br/>ウ 共生生徒主催のイベントを年6回行う。 [6回]</p> | <p>(1)<br/>ア 「ともに学びともに育つ機会」90.1% (○)「ソレイユガーデン」を開講。共生の授業に総合学科の生徒が入る仕組みを確立することができた。<br/>イ 「協力して良いクラスづくり」92.2% (○)モルック大会や七夕飾り、スタンドグラス制作等、大いに盛況だった。</p> <p>(2)<br/>ア 「人権を尊重」95.0% (○) さまざまな人権問題について講演や集会で学ぶ機会が拡充した。<br/>イ 春に実施(29名参加)。秋は日程が合わず実施しなかったが、外部講師による実践的な研修を行い、好評であった。(○)</p> <p>(3)<br/>ア 「国際交流に力」95.3% (◎) キャミアック高校、台湾臺東女子高級中學との交流を盛大に行った。<br/>イ キャミアック高校訪問交流10名 (○)<br/>ウ 3年前期までに英検2級16% (○)</p> <p>(4)<br/>ア 共生生徒卒業生アンケート8.2 (○) 昨年度7月に「仲間の会」を発足したが、構成会員の明確化及び活動実績の積み上げはできなかった。次年度は各クラスに「インクルーシブ委員」を設置し、生徒自治会活動の一環と位置付けて実践する。<br/>イ 「ともに学び、ともに育つ」90.1% (○) インクルーシブルームでの模擬授業を含め、共生生徒の授業公開を実施。中学校からも多くの教員が参加した。<br/>ウ 七夕飾り、文化祭での出店、クッキー店、モルック大会、スタンドグラス制作、クリスマス会、フロアーカーリングの7回実施。多くの生徒が集まった。(○)</p> |
|--|---|---|--|---|

## 府立今宮高等学校

|  |   |   |  |  |
|--|---|---|--|--|
| <p>5. VUCAの時代を乗り越える教職員集団「チーム今宮」の形成</p> | <p>(1)同僚性の高い職場づくりの推進</p> <p>ア 協働体制の確立</p> <p>イ 危機管理体制の確立</p> <p>ウ 職員研修の充実</p> <p>エ 実働防災訓練の実施</p> <p>オ 働き方改革の推進</p> <p>(2)開かれた学校づくり</p> <p>ア ホームページの充実</p> <p>イ 保護者連携の充実</p> <p>ウ PTA、同窓会との連携事業の充実</p> <p>エ 地域連携の拡充と充実</p> | <p>(1)</p> <p>ア 運営委員会を軸に分掌・学年・教科等の連携を強固にする体制を築く。</p> <p>イ 校務分担の再構築を行い、生徒のセーフティネットの充実等、安全・安心に寄与する体制を整える。</p> <p>ウ 喫緊の課題に関する職員研修を効率よく組み入れ。職員集団の機動力と緻密さを向上する。</p> <p>エ 地域と連携した実働防災訓練を計画する。</p> <p>オ ICT機器の活用を促進し、部活動方針の遵守による教職員の時間外在校等時間の縮減をする等、働き方改革に向けた取組みを進める。</p> <p>(2)</p> <p>ア 本校ホームページの更新数を増やし、内容を充実する。</p> <p>イ 対面とオンデマンドを併用した説明会等により情報発信を充実する。</p> <p>ウ 生徒を主役にした連携事業を充実し、生徒の教育活動を支援する。</p> <p>エ 土曜講座の継続実施及び地域活動への生徒や教職員の参画等を積極的に行い、地域との連携を深める。</p> | <p>(1)</p> <p>ア 教職員自己診断「運営委員会は十分に機能」の肯定率90%を維持〔96%〕</p> <p>イ 教職員自己診断「組織的に対応できる体制が整っている」の肯定率90%以上を維持〔98%〕</p> <p>ウ 教職員自己診断「校内研修組織が確立し、計画的に研修が実施されている」の肯定率85%以上を維持〔92%〕</p> <p>エ 教職員自己診断「地震や災害の際の対応を十分に知らせている」の肯定率90%以上を維持〔90%〕</p> <p>オ 教職員自己診断「ICT機器を有効に活用」の肯定率90%以上を維持〔100%〕<br/>教職員の年間時間外在校等時間720時間超をゼロにする〔6名〕<br/>ストレスチェック総合指数85以下を維持〔69〕</p> <p>(2)</p> <p>ア 保護者自己診断「ホームページは充実」の肯定率88%以上を維持〔95%〕</p> <p>イ 保護者自己診断「教育情報提供の努力」の肯定率85%以上を維持〔93%〕</p> <p>ウ 保護者自己診断「PTA活動は活発」の肯定率88%以上を維持〔95%〕</p> <p>エ 生徒自己診断「様々な地域の活動に参加・貢献」の肯定率80%以上を維持〔81%〕</p> | <p>(1)</p> <p>ア 「運営委員会は十分に機能」96.0% (○) 学校運営の中核機関として評価。</p> <p>イ 「組織的に対応できる体制」96.0% (○) 安定した組織力が評価されている。</p> <p>ウ 「校内研修組織が確立」90.0% (○) 研修の目的が教職員のニーズに合致していると評価できる。</p> <p>エ 「地震や災害時の対応」98.0% (◎) 地域との連携はできなかったが、発災時の難易度をより上げた訓練を実施した。</p> <p>オ 「ICT機器を有効に活用」98.0% (○) 「時間外在校時間720時間以上」0人 (○)。ストレスチェック総合指数75 (○)。前年度より数値は高くなったが、概ね良好な状況であると見受けられる。</p> <p>(2)</p> <p>ア 「ホームページは充実」96.6% (◎) 更新回数のはのべ500回を超えている。</p> <p>イ 「教育情報提供の努力」91.7% (○) 進路通信やメールでの発信等を行った。</p> <p>ウ 「PTA活動は活発」95.2% (○) 意欲的に学校支援活動をしてくださった。</p> <p>エ 「地域の活動に貢献」88.1% (◎) 土曜講座に加え、生徒自治会や「もう一つの現代社会」等の授業選択者が主体的に取り組む社会貢献活動が充実した。</p> |
|--|---|---|--|--|